

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 『ロンドンオンライン会議』に参加して1
- 理事退任のご挨拶2
- 理事会・委員会報告3
- 海外ニュース4
- 新・パソコン外論考(其42)5
- 出版文化史道遙(85) 洋書の歴史雑記帳(XL)6
- 2004年度主要国際図書展一覧7

『ロンドンオンライン会議』に参加して

「Online Information 2003」、2-4 December 2003, Olympia Grand Hall, London, UK

ユサコ株式会社 代表取締役会長 山川隆司

2003年12月2日から4日までの3日間、ロンドンのオリンピックで開催された「ロンドンオンライン会議(Online Information 2003)」に今年も出席してきました。以下、今回の会議に出席し感じたことをレポートいたします。

現在、世界の主要学術雑誌の約75パーセントが何等かの形で電子化され、オンラインジャーナルとしてインターネットを通じて各国の大学、研究機関に広く配布されています。我が国でも理工系、医学系の主要な雑誌は殆どオンライン化されています。このような状況のもと、冊子体の購読が年々減りつつづけているのは世界的な傾向といえます。また、これらオンラインジャーナルのコンテンツの大半は大手STM出版社であるElsevier、Kluwer、Thomson、Taylor and Francisなどに独占されつつあります。このように厳しい現実にある我が国の洋書輸入業界の今後のあり方を知るためにはこのロンドンオンライン会議は大変重要な会議であることは言うまでもありません。

展示場の規模はそれ程大きなものではなく、フランクフルト図書展(Frankfurt Book Fair)のSTM会場4-2と同等くらいだと思います。フ



ランクフルト図書展の入場者の目的は版權売買を中心とした商談であり、流通業者、図書館員、そして一般の入場者が行き交い大変盛況を呈しています。それに比べ、ロンドンオンライン会議は出版社と流通業者を中

心としたより専門性の高い、限定した目的を持った会議であると考えてよろしいかと思います。

今回の、展示場への入場者総数12,000名に比べ、セミナー参加者は約700名でした。これはセミナー参加料金が極めて高額であるため、出席者が限定されたものと思われます。一方、会場内で行われた無料セミナーのうち、コンテンツマネジメントの会場は盛況であったようです。この会議ではPublishingという概念に代わって「Contents」という概念が広く使われるようになっていきます。IT業界では「Solution」という表現を用いていますが、この会議でも「Contents」と「Solution」という言葉が広く使われていることに時代の変化を強く感じました。

現在大手出版社ではオンラインによってコンテンツの提供を行うという実験段階を終え、新たなビジネスモデルに基づいて利益を追及するという第二段階に入っています。さらに次の段階ではユーザの発言力が強くなり、ユーザがポータルを通じて必要とされる情報をナビゲートする時代が到来するものと思われます。会場では、このようなサービスに参入を試みるマイクロソフトやネットハットなどの大手ソフトウェア会社や、中小ベンダーの小型ブースが増加する一方、コンテンツ系は前に述べたように、大手出版社による集約化が進んでいるため、全体として出展コマ数が減少し、かつコマのサイズも小さくなってきているのが印象的でした。

例年、出版社によって開催されるレセプションについても、最大手のエルゼビア社が開催を中止するなど世界的な不況を感じました。

オンライン会議はこのような性格を持った会議とトレードショーですが、出版業界全体をよりよく把握するためには、フランクフルト図書展との両方に参加することにより相乗効果が期待できます。また、西欧社会での商取引が個人対個人に基盤を置いている以上、このような会議への出席を通じて取引先とのネットワークを強化する必要があることは言うまでもありません。

最後に渡航コストについて簡単に述べます。オンライン会議場への入場料は無料なので、往復航空券と5

日間の中級ホテル滞在費用（朝食込み）で約17万円程度で比較的安い費用で賄うことが可能です。

以上、散文ではありますが「ロンドンオンライン会議-2003」に参加しての感想を述べさせていただきます。何等かの参考にして頂けましたら幸いに存じます。



【協会ウェブサイト・ニュース欄より転載】

理事退任のご挨拶

渡辺 正憲

私は11月17日に開催された弊社定時株主総会で、任期満了を機に取締役を退任しました。取締役として二十二年、代表取締役として十六年間勤めましたが、正直なところ、些か長くなりすぎて、マンネリになっていたかもしれません。幸いに、本年6月2日に洋販とタトル商会との合併がなされ、ここにきて漸く合併後の多少の混乱も治まり、新洋販は軌道に乗りつつありますので、若い経営陣に将来を託すこととしました。

激変する世界情勢とビジネス環境の中で、しっかりと荒波を乗り切り、社業を発展させるためには、過去に囚われない柔軟な頭脳と、時代の趨勢を見極める目、しっかりとした目標の設定、そしてそれを実現する強固な意志が欠かせません。新洋販の役員構成は三十代、四十代、五十代がバランス良く分布し、若い人達が十分に力を発揮出来る環境が整いました。洋書の普及という私達の永遠のテーマの実現に向けて、大いに力を尽くしてくれるものと信じています。

日本洋書協会では、皆様に親切にして頂き、多くの思い出を作ることが出来ました。長年に渡り理事を勤めさせて頂きましたが、当初、洋書輸入協会時代には、

文化厚生委員長として新年会の司会を何度かやらせて頂きましたし、その後は規約改正委員長を仰せつかり、委員の皆様が熱心にご討議頂いたお陰で、改正案を短期間で取り纏め、理事会に答申することが出来ました。最近では副理事長として関西の会員の皆様へ個別にお目にかかり、色々なお話を伺うという機会にも恵まれました。そして、洋書と一言でいっても、外国雑誌から専門書、一般書まで、そして英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語など様々な言語の書籍雑誌、更には楽譜、マイクロフィルム、ビデオ、CD-ROM、データベース、バックナンバーと、新刊から古書に到るまで、実に多種多様なものが扱われていることを再認識する機会を与えて頂きました。また、会員の皆様それぞれの分野で苦勞をされながらも、市場の拡大に向けて、弛まぬ努力を続けていらっしゃることに感銘を受けました。

新年会や年次総会、懇親会、理事会、忘年会などの情報交換、72会のコンペ、真夏の猛暑の中での理事会ゴルフ、石毛先生を囲んでの囲碁大会等々、楽しい思い出を沢山ありがとございました。皆様の益々のご活躍をお祈りします。

理事会報告

11月27日(木)

1. 《洋販》日本洋書販売(株)の役員改選に伴う、渡辺理事(代表取締役会長)及び大倉理事代理(取締役副社長)の退任、賀川代表取締役社長の理事並びに楠本常務取締役の理事代理就任が発表され、渡辺、賀川両氏よりご挨拶があった。
2. 以下の委員会報告を了承した。
 - (1) 総務委員会：
 - ・消費税総額表示の問題について協会として何らかの助言や指導が必要とする意見が強く出された。
 - ＊税務当局の見解を問う際には具体的な表示方法を提示する必要がある。
 - ＊バーコード導入によりスリップレスを図る、スリップの「ぼうず」に表示する、カタログに本体価格と税込み価格を表示する、など対応策は幾つか挙げられる。
 - ・事務局長人事については雇用条件等を整備して人選を進める。

(2) 広報委員会：

- ・パンフレット改訂版を製作した。海外取引先等への配付に協力をお願いする。
- ・アマゾン・ジャパンによるセミナーには90名を超える出席申込みがあった。

(3) ホームページ・ダイレクトリー委員会：

- 協会ウェブサイトの一層の拡充に取り組む。
- ＊ホームページの維持・改善には多額の費用を要する。基金を設けてはどうか。

(4) 事業委員会：

- 東京国際ブックフェア・洋書バーゲンセールの実施準備を年明けに開始する。

3. 以下の事務局長報告を了承した。

- ①正会員2社より非公式に今年度末退会の意思表示があったが慰留に努めている。
- ②1社より入会希望があったので、検討資料及び入会申込書を送った。

委員会報告 <文化厚生委員会>

JAIP 釣り同好会 アジ釣り大会

と き：2003年11月22日(土)
釣り場：茅ヶ崎沖
参加者：11名

JAIP釣り同好会の2003年最後の釣り大会が茅ヶ崎沖で行われた。早朝の相模湾からは、雄大な富士山を眺める事が出来る程の快晴。しかし風があった為か波は大きく、船の揺れが強い中我々11名は沖へと向かった。私にとって今回が3回目の参加、以前には釣堀しか経験がないのだから、まだまだ紛れもないビギナー。今までは釣りの楽しみもわからず、いやそれどころか、釣り人とは優遊不迫なまるで水墨画の中にいる人物のような静寂を楽しむ人達のように考えていたのである。実際、魚群を探せない時は、30分或いはそれ以上の時間を唯釣り糸を垂らしているだけに見えるかもしれない。しかしながら今回も最も深いところで水深125メートル。釣り人達は、勿論見える事のない海底の辺りに針を置き、僅かな当たりも逃がぬよう意識を集中させ、その潮の動きや魚群を予測する。釣り

とは、極めてアクティブで自然との調和を図るスポーツなのである。そんな釣り人たちに囲まれ、私は時々感じる事がある。現代の多忙な社会において多くの人たちが自己啓発に興味を抱いている。学ぶ事自体を考えるラーニングセミナー、他人とのコミュニケーションに有効なコーチング等。大きな海原に身を置き、潮の香りを全身で受け、一瞬の好機に集中する釣りは、人が日常から離れた自己と向き合う作業であり、この作業から受ける恩恵は、自己の啓発の効果があるように思えてならない。そして思い出す言葉は哲学者ホセ・ガルシア・イ・ガゼットが言った”私は私と私の環境である。”もしあなたが自分探しをしたいならJAIP釣り同好会に参加されては如何でしょうか。とても良い環境に出会うことが出来る筈です。

釣果：1位 廣瀬敏明、二村 真(大洋交易)、松村英城(UPS)

[UPS 松村英城記]



◆ 出版社への挑戦：科学者による研究結果の無料提供の試み

研究結果を高額な subscription-only の電子データベースでの提供に限ってしまっている出版社に対抗し、有力な科学者のグループが無料提供の Journal を立ち上げようと試みている。

研究結果を何百もの専門誌にパッケージし年間何千ポンドという金額で販売している Elsevier Science の様な多国籍出版社とイギリスのノーベル賞受賞者の Paul Nurse, John Sulston を含む最高峰の科学者に支持されジャーナルを無料提供する the Public Library of Sciences (PLOS) と呼ばれる新興出版社の対決である。

Cambridge 大学の Julie Ahringer は「出版社は我々の研究で多額に儲けている。多くの良質・基礎的な科学が全ての人に利用されないのは公正ではない」と述べている。同氏は10月13日発刊1号となる雑誌“PLOS Biology”の編集局に属している。こうした動きは現存出版社の現在の方針を変えさせ、より多くの情報を無料提供する方向へ変えさせるという目的を有している。

The PLoS の編集長である Vivian Siegel は「1%や5%の文献ではなく、全ての文献を open access させたい。」と述べている。The New biology journal は internet で利用可能となるが、最初の monthly edition は 25,000 copies の冊子体も発行される。PLOS Biology が初の open-access 科学雑誌ではないが最も支持されているジャーナルであり、American charitable foundation からの数百ドルという助成金で成り立っている。又、おそらく米国の TV でゴールデンアワーに宣伝される初のジャーナルである。

Hallmark

Dr. Siegel は「この雑誌のゴールは life science 研究の最初の目的地となり、既存の著名な出版社と競う事である。これは他の誰もがしている方法ではなく自分の信じる事をするという事であり、これが真の科学者の証明であると私は考える」と述べている。

他の出版社は公けにはこれらの動きに脅威を感じていないとしているが、状況を懸念し、見守っている。既にある1社は自前の open-access version を準備し、必要があれば立ち上げる用意がある。

Elsevier Science は「我々はこのような更なる試みを歓迎し、競争を受け入れる。しかし、新しいモデルが機能するに先立って現在の subscription-base のビジネスがなくなる事はないと考えている」と述べている。

出版社の中にはこの新興グループは最初の資金が尽きたら運営していけないだろうと推測するものもある。既存出版社は膨大な subscription fee を請求するのに対し、PLOS は研究結果が出版された科学者に対して Charge するのである。

30,000 強の科学者が研究結果の全てを無料公開しないジャーナルのボイコットに署名しているが、出版社の虚勢には弱腰になっている。これはひとつには科学者は彼らの研究結果を出版する事により、資金、Job offer を確保する必要があるという事、又、Science や Nature に載る事は若い科学者の履歴書にインパクトを与える事が考えられる。

この新しい試みの成功を願っているグループとしては近年の雑誌の数・価格の急上昇を目の当たりにしている大学の Librarian である。University of Leeds の head librarian は「大きな研究図書館は団結して出版社に圧力をかけようとした。しかし、学者は研究の為にジャーナルを必要とし、相当に圧力も強く、出費を抑えようとする我々の力は強くない。」と述べている。多くの研究図書館が数百のタイトルを有す電子ジャーナル package を購入し、冊子体を購入しなくなってきている。しかしながら、このような package の価格は1年で150%も値上がりする。

The Guardian October 6, 2003

＜ニュース提供：ユサコ株式会社＞
【協会ウェブサイト・ニュース欄より転載】

新・パソコン外論考 (其42)

宇田川一彦

◆I get a kick out of you/あなたにはまいったよ！

■〈子曰〉・・・唯赤則非邦也与、宗廟会同、非諸侯而何、赤也為之小、孰能為之大、

〈The Master said,〉“In the case of Ch'ih, was he not concerned with a state? ” What are ceremonial occasions in the ancestral temple and diplomatic gatherings if not matters which concern rules of feudal states? If Ch'ih plays only a minor part,who would be able to play a major role? ”

(論語／先進篇・Confucius;The Analects／Book XI)
【超拙意訳；〈先生は、言われました。〉「赤（公西華）のケースだが、彼だって、関心はちゃんとした独立国をめざしているわけじゃないか？」「どこにも、宗廟の祭りや会合が、諸侯のなすべき職務でないということはないだろう？」「それにしても、公西華ほどの人物が小相（君主の輔佐役・アドバイザー）でいいというが、じゃ誰が、大相（輔佐長）の大役になるというのだろう？ 赤（公西華）のはかにいるわけじゃないか！】

【外注：公西華も、ちゃんとした国の輔佐役になりたいのに、少し遠慮しているね。これもあまり意味がないことだよ、と孔子は思っていたわけです。】

★Personal ComputerとSoftwareについて－6－

◆ワードプロセッサについて

OpenOffice（統合ソフト・以下OpOfと略記。<http://www.openoffice.org>）の続きです。このOpOfをより快適に使うために、「秀caps for Windows ver.7.0（以下秀capsと略記。<http://www.hidemaru.xaxon.co.jp/>）」というキーボード・ユーティリティを起動時から咬ませてあります。

- ・カーソル移動の加速とキーリピートの間隔を短くして、カーソルが高速に移動します。これもあまり早いと、CTRL（コントロールキー）＋Vで、貼り付けたときなど1回の心算が4～5回やってしまいますので、現在はそこそこの「加速」にしています。
- ・日本語系の機能。無変換キーで漢字ONや英数キー2回で漢字OFF、Altキーを押したときに変換中文字列を確定するように設定できますが、筆者はここは一切設定しないで、default（債務不履行、コンピ

ューター関係では初期設定の意味）のママにしてあります。かな漢字変換の制御機能もdefaultのママです。

- ・その他の設定のところは、スグレものです。Winのキーボードは、109ボード。ESCキーは、F1（ファンクションキーの1）の左隣にあります。これが意外に使いにくいのです。そこで、半角/全角キーを【Esc】キーします。Shiftキーを押さなくても、カギカッコ入力可能にします。テンキーにあるピリオド・キーを2回押すことで、コンマ入力ができるようになります。テンキー上のピリオドキーを2回押すことでコンマ1文字を入力できるようになります。また、テンキー上のNumLockキーを【イコール】キーにします。

これで、入力がぐっと楽になります。とくに半角/全角キーがEscキーになる点がいいです。このキーボードutilityは、筆者が使っているほとんどのアプリケーション上で動作しています。

★Internetについて（博物館海外編－New York 11－）

アメリカ自然史博物館（American Museum of Natural History=<http://www.amnh.org>）のローズ宇宙センターは、共通券をケチったために、入らずじまいでした。これは、いまま残念に思っています。

このアメリカ自然史博物館を後にして、セントラルパーク横切り、アッパーイーストサイドのニューヨーク市立博物館（Museum of the City of New York=<http://www.mcny.org>）をかいま見ました。入館料は、任意です。筆者は、5ドル寄付をして入館。親子連れで、10ドル入れていましたので、妥当かと勝手に解釈しました。5階のRockefeller Roomは、1938年当時の自宅寝室とドレスルームを再現してあります。

今度は、一気にマンハッタン南に下りウエストサイドのPier 86のイントレピッド博物館（Intrepid Sea-Air-Space Museum=<http://www.intrepidmuseum.com>）に乗艦。1941年からベトナム戦争まで活躍した航空母艦イントレピッドを博物館に転用したものです。飛行甲板には、F-4ファントムなどが並んでいます。館内（艦内）には、ライト兄弟のライト・フライヤーの模型があります。入館料（乗艦料）は、メットやアメ自然博より高めの13ドル。ファントムのフライトシミュレーターは、別料金ときました。

（この項続く、乞ご期待）

洋書の歴史雑記帳〔XL〕ドイツ学術受容の歴史(3)

鈴木 陽 二

◆日独学術交流の淵源―キリシタンの頃― (3)

横道ばかりで恐縮だが、前回、佐渡金銀積み出し港の宿根木に触れたが、ついでに本土における受け入れ港だった出雲崎について記しておこう。

出雲崎は良寛の生誕の地として知られているが、歴史は古く、中世から北国街道の要港として栄えた。徳川初期には家康の6男忠輝が越後55万石を領したが、改易後天領となり越後300ヶ村を支配する代官所がおかれた。江戸時代初頭、金山奉行の久保長安が金銀を北国街道で江戸に送るために、出雲崎を陸揚げ港と定めた。また北前船の往来する港としても賑わった。

出雲崎を訪れたのは、季節風の吹き荒れた晩秋の一日だった。出雲崎は旧北国街道に沿って3.6キロの妻入りの家並みに残り、ネズミ色に塗られた板壁の家々が、北越の暗い風景を一層暗くして立ち並んでいた。芭蕉の「荒海や佐渡によこたふ天河」は、彼が奥の細道行脚の途中元禄2年にここ出雲崎で詠んだ名吟だが、芭蕉が曾良とともに一夜を過ごした小さな旅館大崎屋は今でも旧北国街道沿いに目にすることが出来る。その北国街道の細い通りは風が吹き募って、時折、家並みの切れ目からは日本海の白い狂濤が垣間見られる。今、出雲崎の灰色の淋しい町筋には、かつての繁栄の姿を想像するよすがもない。

本題に戻ろう。天正遣欧使節が活版印刷機を持ち帰ったのは、日本巡察師ヴァリニャーノが布教を進めるため出版物を通して教義の浸透を計画したからだ。この計画は彼が信長に謁見(1581=天正9年)した頃にはすでに持っていたようで、信長に印刷本の装飾聖書を見せると同時に、この考えを述べたという。

活版印刷機は、1440～50年にドイツのマインツ在住のヨハネス・グーテンベルクによって発明され、1455年頃には有名なラテン語聖書『42行聖書』が印刷された。詳細は富田修二『グーテンベルク聖書の行方』など優れた研究があるので、それらをお読みいただきたいが、ともあれ、活版印刷術は瞬間にヨーロッパに広がり、イタリアには10年足らずで伝わったが、ポルトガルには比較的遅く約30年後の1487年だったという。ともかく、このドイツで生まれた希代の発明品である活版印刷機が、発明から1世紀半ほどした1590(天正18年)には日本に輸入され、68種類に

も上る出版物、いわゆるキリシタン版が発行されたことは、日独交流史の大きな輝跡となって残るだろう。

コンスタンチン・ドラードという諫早で生まれ、キリシタンに育てられた日本人信者がいたが、ドラードとは鋳り職人を意味するポルトガル語なので、恐らくその関係の職人だったと思われる。巡察師ヴァリニャーノは、印刷機を日本に持ってきたときの印刷技術者として彼を養成する考えで、遣欧使節とともにヨーロッパに送った。ヴァリニャーノが発注した印刷機が使節一行に引き渡されたのはリスボンだったが、機械はドイツ製ではなく、木箱にイタリア語が書かれていたのでイタリア製だったのではないかと、ドラードは推測したようだ。リスボンから積み出したのは、印刷機のほかに、おびたしい量の欧文活字、母型、鋳型、鉛・錫・アンチモニーなどの活字原料、紙、版木、印刷工具などで、印刷に係わる部品・道具が完全に調達されていた。もちろん、日本語活字や印刷用和紙はドラードなどにより日本で製作されることになる。

遣欧使節が帰国したとき既に秀吉によって伴天連追放令が出されており、余り目立った動きも出来ず、印刷機は隠すように加津佐のコレジオにおくことに決まった。天正遣欧使節の副使の一人原マルチノはラテン語に長じ、インドのゴアの聖パウロ学院でインド副王や聖職者、学生の前でラテン語で演説し大喝采を博したが、後年キリシタン禁教令でマカオに追放になった。彼の1590(天正18年)8月24日の日記に、「印刷機は寺の庫裡に当たる広い土間の真ん中に置かれ(中略)グーテンベルクの印刷機が、東洋の一王国の南端の、古寺めいた学林に、牛の死骸みたいに放置してある様は異様な光景である」と記しているので、活版印刷機がグーテンベルクの発明品であったことを知っていたということだろう。と同時にこの文章からは、ひしひしと迫るキリシタン弾圧に、至宝のような印刷機を目の前にしても高揚出来ないでいる気持ちが伝わって来るような思いがする。しかしそういう時代にも拘わらず、加津佐を皮切りに20年に及び、日本に活版印刷文化が開花することとなるのだが。〔参考文献：望月洋子『加津佐物語』／青山敦夫『活版印刷人ドラードの生涯』／松久卓「加津佐に創設した活版印刷所―ヴェネツィアから長崎まで―」(元丸善・本の図書館長)

2004年度主要国際書籍展一覧

《2003年12月10日現在開催期日確定分より抜粋》

書籍展名	開催期日	開催地	e-mail	Website	
Taipei Intern'l Book Exhibition	1／28－2／2	Taipei	info@tibe.com		www.tibe.com
London Intern'l Book Fair	3／14－3／16	London	RECinfo@reedexpo.co.uk		www.lbf-virtual.com
Salon du Livre Paris	3／19－3／24	Paris	livre@reedexpo.fr		www.salondulivreparis.com
Leipzig Book Fair	3／25－3／28	Leipzig	info@leipziger-buchmesse.de		www.leipziger-buchmesse.de
Milia	3／31－4／2	Cannes	info@milia.com		www.milia.com
Bologna Children's Book Fair	4／14－4／17	Bologna	dir.com.@bolognafiere.it		www.bookfair.bolognafiere.it
Tokyo International Book Fair	4／22－4／25	Tokyo	tibt@reedexpo.co.jp		www.reedexpo.co.jp
Bookworld Prague 2004	5／6－5／9	Prague			www.bookworld.cz
Warsaw International Book Fair	5／20－5／23	Warsaw	mtk@arspolona.com pl		www.arspolona.com.pl
Seoul International Book Fair	6／4－6／9	Seoul	danapark@kpa21.or.kr		www.sibf.co.kr
Book Expo America	6／4－6／6	Chicago	inquiry@bookexpo.america.com		www.bookexpoamerica.com
Special Library Ass.Book Exhibit	6／5－6／10	Nashville	sla@sla.org		www.sla.org
American Lib. Ass. Book Exhibit	6／24－6／30	Orlando	ala@ala.org		www.ala.org
Hong Kong Book Fair	7／21－7／26	Hong Kong	exhibitions@tdc.org.hk		www.hkbookfair.com
Moscow Intern'l Book Fair	9／1－9／6	Moscow	exhibitions@elnet.msk.ru		www.bookfair.ru
Beijing Intern'l Book Fair	9／2－9／6	Beijing	bibfmo@bibf.net		www.cnpeak.com.cn
Frankfurt Book Fair	10／6－10／11	Frankfurt	info@book-fair.com		www.frankfurt-book-fair.com
Salon du Livre Montreal	11／18－11／22	Montreal	slm.info@videotron.ca		www.salondulivredemontreal.com
CIROBE 2004	10／29－10／30	Chicago	info@cirobe.com		www.cirobe.com

よいお年をお迎え下さい

最新ドキュメンタリービデオ

完全スクリプト付

Hillary Rodham Clinton

From Wellesley to The White House

ヒラリー・R・クリントン：世界的権力中枢への道のり

・米国 FILMAKERS 社が厳選した珠玉のドキュメンタリービデオコレクションより・



第41代アメリカ大統領夫人ヒラリー・クリントンは、歴代大統領夫人が担って来た伝統的役割の域を越え、国家権力の中枢で国の行方を左右する政策立案に積極的に関わりました。このドキュメンタリーでは、そこに至るまでの彼女の人生を辿り、新しい大統領夫人像が巻き起こした賛否両論を検証します。

気さくで理想に燃え、仲間にも教授陣にも人気者だった大学時代。ゴールドウォーター支持から政治的リベラルへと変ぼうを遂げ成人する60年代。1979年に最年少州知事に当選したビル・クリントン州知事夫人時代、南部の保守的投票を獲得するために革新的イメージを一新したヒラリーの映像など、貴重なクリップが満載です。

これらの秘蔵映像と共に、友人、知人はもとより、保守急先鋒のバット・ブキャナン等過去の「政敵」、ニュースウィーク、ワシントンポスト等のメディアや、フェミニスト詩人キャサ・ポリット等、多彩なインタビューを交え、ヒラリーの知られざる一面を多角的に紹介します。

男女平等、女性進出の先進国と言うイメージが強いアメリカで、女性が真の権力中枢に積極的に近づいた時に受けた凄まじい逆風に焦点をあてて鑑賞すると、男女平等問題の根深さと共に、知られざるアメリカの素顔を見ることが出来ます。

ビデオ1巻(52分)完全スクリプト付 ￥30,000

(価格は本体価格で消費税は含まれておりません)

伸興通商株式会社

TEL:03-3353-1751 / FAX:03-3353-2205 / E-MAIL: shinko@shinkotsusho.jp

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-7-1